

2025 年度「深田賞」受賞者 顕彰理由

上野 将司（うえの しょうじ）

上野将司氏は、1969 年（昭和 44 年）北海道大学理学部地質学鉱物学科を卒業後、応用地質（株）に入社、主に斜面防災の調査・解析・設計業務に従事し、斜面防災部長・道路部長・技師長を歴任した。2016 年（平成 28 年）同社を退社後、技術顧問を経て、社友として現在に至っている。

上野将司氏は、入社以来、長年にわたり岩盤崩落や斜面崩壊などの災害対応、あるいは地すべり対策等に携わり、斜面防災分野において多くの貢献と業績をあげてきた。特に同氏は、現地調査の重要性を強く訴え、地形・地質の理解がすべての基本であるとし、現場における多角的な情報収集が、落石や岩盤崩壊対策の調査・検討対策に有効であることを示した。またこれらにより得られた知見・データは、現在の落石や岩盤崩壊対策の調査・検討対策等の種々の指針・基準に盛り込まれている。さらに地すべり対応においては、地下水流動解明の重要性を指摘し、大規模な地すべりの対策において排水対策工が最も効果的かつ経済的な基幹対策工となり得ることを現場実証により示した。

このような同氏の長年にわたる斜面防災に関する取り組みと成果は、日経コンストラクション誌の特集記事「頼られる土木技術者の条件」で取り上げられ、その後、2 年間にわたり同誌に「危ない地形・地質の見極め方」と題して連載された。その内容は同名の書籍として出版され、現在も国内の技術者にとどまらず台湾や韓国などの斜面防災に関わる技術者に活用されている。

同氏は、地盤工学会、日本応用地質学会、日本地すべり学会、土木学会など斜面災害に関連する学会の技術委員会の委員を多数務めたほか、国土交通省や NEXCO 各社の道路防災関係の委員等を現在まで務めている。また講習会講師や大学での非常勤講師を通じて、次世代技術者の育成にも貢献してきた。さらに現在は、横浜市一般職員に対して崖防災のための地質・法研修会を継続すると共に、日経コンストラクション誌に「危険な土地・地盤を見抜く」シリーズを連載中であり、技術者のみならず一般市民へのアウトリーチにも積極的に貢献している。

以上、上野将司氏の斜面防災分野に関する業績、学協会活動を通じた応用地質学の普及と技術継承、さらには次世代技術者の育成への貢献や一般市民への啓発は極めて高く評価される。これらのことから、上野将司氏をここに顕彰する。

2025 年 9 月 26 日

公益財団法人 深田地質研究所

理事長 松田博貴